健康社会医学

1　構　成　員

	平成23年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師(うち病院籍)	0人　　(　0人)
助教(うち病院籍)	2人　　(　0人)
助手(うち病院籍)	0人　　(　0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	1人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	8人　　(　0人)
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	2人
合計	16人

2　教員の異動状況

尾島　俊之（教授）　（H18.4.1 ～現職）

早坂　信哉（准教授）（H19.4.1 ～ H21.10.31 講師；H21.11.1 ～ H23.3.31）

村田千代栄（助教）　（H17.4.1 ～ H19.3.31 助手；H19.4.1 ～現職）

野田　龍也（助教）　（H19.4.1 ～現職）

菊池　寛利（特任助教）（H21.9.1 ～ H21.10.31 第 2 外科医員；H21.11.1 ～ H23.3.31）

3　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	10編　　(6編)
そのインパクトファクターの合計	5.60
(2)論文形式のプロシーディングズ数	3編
(3)総説数(うち邦文のもの)	4編　　(4編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	15編　　(10編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	0編　　(0編)

そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yamada T, Hayasaka S, Shibata Y, Ojima T, Saegusa T, Gotoh T, Ishikawa S, Nakamura Y and Kayaba K : Frequency of Citrus Fruit Intake Is Associated With the Incidence of Cardiovascular Disease : The Jichi Medical School Cohort Study, J Epidemiol, 21(3), 169-175, 2011. [1.643]
2. Hayasaka S, Shibata Y, Goto Y, Noda T, Ojima T : Bathing in a bathtub and health status : Across-sectional study, Complement Ther Clin Pract, 16, 219-221, 2010. [0.0]
3. 近藤今子，酒井映子，尾島俊之：マネジメントサイクルに基づく市町村公衆栄養活動のための目標設定に関する検討，厚生の指標，57(5)，21-28，2010. [0.0]
4. 長山有香里，桑原徹人，木下幸子，早坂信哉，村田千代栄，野田龍也，尾島俊之：飲食店の分煙状況および関連要因に関する研究 , 厚生の指標 , 57(3), 31-36, 2010. [0.0]

インパクトファクターの小計 ［ 1.643 ］

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Shibata Y, Hayasaka S, Yamada T, Goto Y, Ojima T, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nakamura Y, JMS cohort study group : Physical activity and cardiovascular disease in Japan : the Jichi Medical School cohort study, J Epidemiol, 20(3), 225-230, 2010. [1.643]
2. Hanibuchi T, Nakaya T, Murata C : Socio-economic status and self-rated health in East Asia: a comparison of China, Japan, South Korea and Taiwan, European Journal of Public Health, November 26, 1-6, 2010. [2.313]
3. 中村美詠子，近藤今子，久保田晃生，古川五百子，鈴木輝康，中村晴信，早川徳香，尾島俊之，青木伸雄：不登校傾向と自覚症状、生活習慣関連要因との関連　静岡県子どもの生活実態調査データを用いた検討 , 日本公衆衛生雑誌 , 57(10), 881-890, 2010. [0.0]
4. 鷲尾昌一，尾島俊之，玉腰暁子，酒井未知，武藤香織，小橋元，石川鎮清，大神英一，太田薫里，佐藤恵子，鈴木美香，杉森裕樹，内藤真理子，中山健夫，丸山英二，山縣然太朗：社会医学実習での疫学調査と疫学調査を行う際の倫理に関する教育の実態　～衛生学公衆衛生学教育協議会加入講座の教育担当者へのアンケート調査より～ , 臨牀と研究 , 87(10), 1473-1481, 2010. [0.0]
5. 柴田陽介、早坂信哉、野田龍也、村田千代栄、尾島俊之：する・見る・支えるスポーツ活動と主観的健康観，運動疫学研究 , 13(1), 44-50, 2011. [0.0]
6. 柴田陽介、早坂信哉、野田龍也、村田千代栄、尾島俊之:年齢、実施頻度、種目別にみた青・壮年期のスポーツ実施の現状及び推移：15 年間の社会生活基本調査を用いた記述疫学研究 , 運動疫学研究 , 13(1), 51-60, 2011. [0.0]

インパクトファクターの小計 ［ 3.956 ］

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Murata C, Takeda T, Hirai H, Kondo K : Social support and dementia onset in Japanese elderly: a 4 year follow-up study, Mateos R, Engedal K, Franco M. Eds, Abstracts of the IPA International Meeting Santiago de Compostela “IPA2010, Diversity, collaboration, dignity” 287-288, 2010. [0.0]
2. 尾島俊之、平井寛、中出美代、村田千代栄、相田潤、筒井秀代、近藤尚己、埴淵知哉、花岡智恵、近藤克則：フードデザート（食の砂漠）に関する探索的研究 , 日本循環器病予防学会雑誌, 2010. [0.0]
3. 尾島俊之、仲井宏充、原岡智子、岡野谷純：災害ボランティアによる消毒作業のニーズと課題 , 日本集団災害医学会誌 , 15(3), 385, 2010. [0.0]

(3) 総　　説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之：健康危機管理 , 月刊地域医学 , 24(10), 772-777, 2010. [0.0]
2. 尾島俊之：ソーシャル・キャピタルと地域保健 , 保健師ジャーナル , 67(2), 96-100, 2011. [0.0]
3. 尾島俊之、近藤克則：ライフコース疫学 , 日本公衆衛生雑誌 , 58(3), 199-201, 2011. [0.0]
4. 村田千代栄：子どもの問題行動 , 日本公衆衛生雑誌 , 57(6), 486-490, 2010. [0.0]

インパクトファクターの小計　　［ 0.00 ］

(4) 著　　書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ojima T. Social capital and population approach. In Takashi Muto, ed: Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education. Springer, 2010
2. Murata C. Box 6: Self-rated Health. pp30-31 In Kondo Ed. Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of the Elderly, Transpacific Press, Melbourne, Australia. 2010, 9
3. Murata C. Chapter 5: Insomnia, pp65-75 In Kondo Ed. Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of the Elderly, Transpacific Press, Melbourne, Australia. 2010, 9
4. Murata C. Box 10: Global perspective on Insomnia in Japan’ s Older Population. pp74 In Kondo Ed. Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of the Elderly, Transpacific Press, Melbourne, Australia. 2010, 9
5. Murata C. Box 14: Senior Citizens’ Clubs. pp169, In Kondo Ed. Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of the Elderly, Transpacific Press, Melbourne, Australia. 2010, 9
6. 尾島俊之：精神疾患・自殺．田中平三、徳留信寛、辻一郎、吉池信男編集．社会・環境と健康　改訂第 3 版．南江堂．2010.
7. 尾島俊之：公衆衛生とはなにか、いいとこ発見モデル（アセット・モデル）のすすめ、災害と健康．岩室紳也、安藤実里、石川貴美子、尾島俊之、国吉秀樹、鈴木廣明、田中久子、藤内修二、中板育美、中川昭生、中瀬克己、原田久、櫃本真聿、福島富士子、福永一郎、福原円、松岡宏明著．公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター編．健康なくに．医療文化社，2010.
8. 尾島俊之：基本的な統計量、生存分析（カプラン・マイヤー法）．中村好一編集．論文を正

しく読み書くための　やさしい統計学　改訂第 2 版．診断と治療社，2010.

9. 尾島俊之：保健医療制度と医療資源、日本における公衆衛生に関連する行政の流れ．柳川洋、中村好一編集．柳川洋、尾島俊之、坂田清美、中村好一、萱場一則、中川秀昭、黒沢洋一、諏訪園靖著．公衆衛生マニュアル 2011，南山堂，2011.
10. 村田千代栄：第 16 章（不眠と肥満の関連）［翻訳］・第 17 章（社会経済的地位と肥満の関連）pp294-344［翻訳］(原著：Hu. FB ” Obesity Epidemiology, Oxford University Press, Inc. New York, New York, 2008”)　In 小林身哉、八谷　寛、小林邦彦監訳 : 肥満の疫学 , 名古屋大学出版会 , 2010,10.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 柳川洋編集、柳川洋、永井正規、小田清一、鏡森定信、萱場一則、坂田清美、尾島俊之著：基礎から学ぶ健康管理概論　改訂第２版．南江堂，2010.
2. 大井田隆、兼板佳孝、横山徹爾、曽根智史、山縣然太朗、水嶋春朔、尾島俊之、青山旬、谷原真一、中山健夫、吉池信男、小橋元、青木良太、藤田利明、杉山龍司：図説 国民衛生の動向 2010/2011.（財）厚生統計協会，2010.
3. 岡本悦司、兼板佳孝、小橋元、坂田清美、佐藤敏彦、吉池信男、岡田充史、尾島俊之、嘉納明子、亀崎豊実、高橋美保子、西浦博、森下幸治、山田宣夫、渡邉亮一：サブノート 保健医療・公衆衛生 2011 第 34 版，メディックメディア，2010.
4. 柳川洋、尾島俊之、北村邦夫、中村好一、菊地慶子、倉田貞美、近藤今子、柴田陽介、巽あさみ、千原泉、坪井聡、中村美詠子、西山慶子、長谷川拓也、原岡智子、安田孝子、渡辺晃紀：保健指導ノート 2011　公衆衛生の現状．日本家族計画協会，2010.
5. 緒方剛、渋谷いづみ、早坂信哉　事例調査・地域内連携研究分担班：健康危機発生時における行政機関相互の適切な連携体制及び活動内容に関する研究．In　多田羅浩三（研究代表者）：平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業「健康危機発生時における行政機関相互の適切な連携体制及び活動内容に関する研究」報告書．p.29-58, 2011.

4　特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成22年度
(1)文部科学省科学研究費	4件　（201.5万円）
(2)厚生科学研究費	6件　（ 730万円）
(3)他政府機関による研究助成	0件　（ 0万円）
(4)財団助成金	0件　（ 0万円）

(5)受託研究または共同研究	1件　　（　50万円）
(6)奨学寄附金その他(民間より)	0件　　（　0万円）

(1) 文部科学省科学研究費

尾島俊之（分担者）　基盤研究（B)、心理社会面に着目した認知症の予防的社会福祉に向けた縦断研究、平成 22 ～ 25 年度、13 万円（新規)、研究代表者　星城大学　竹田徳則

尾島俊之（分担者）　基盤研究（C)、二次医療圏単位の平均余命の基礎的特性及び保健医療状況等との関連に関する疫学的研究、平成 21 ～ 23 年度、19.5 万円（継続)、研究代表者　埼玉県立大学保健医療福祉学部　新村洋未

村田千代栄（研究代表者）　基盤研究（C)、一般高齢者における受療抑制とその予後に関する追跡研究、平成 21 ～ 23 年度、156 万円（継続）

村田千代栄（分担者）　基盤研究（B)、心理社会面に着目した認知症の予防的社会福祉に向けた縦断研究、平成 22 ～ 26 年度、13 万円（新規)、研究代表者　星城大学　竹田徳則

(2) 厚生科学研究費

尾島俊之（分担者）　健康安全・危機管理対策総合研究、地域健康安全を推進するための人材養成・確保のあり方に関する研究、平成 22 ～ 23 年度、350 万円、研究代表者　国立保健医療科学院　曽根智史

尾島俊之（分担者）　循環器疾患等生活習慣病対策総合研究、健康寿命の年次推移、地域分布と関連要因の評価に関する研究、平成 21 ～ 22 年度、210 万円、研究代表者　藤田保健衛生大学　橋本修二

尾島俊之（分担者）　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究、2010 年国民健康栄養調査対象者の追跡開始（NIPPON DATA 2010）と NIPPON DATA 80/90 の追跡継続に関する研究、平成 22 ～ 24 年度、50 万円、研究代表者　滋賀医科大学　三浦克之

尾島俊之（分担者）　成育疾患克服等次世代育成基盤研究、健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、平成 21 ～ 23 年度、100 万円、研究代表者　山梨大学　山縣然太朗

尾島俊之（分担者）　長寿科学総合研究、介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発、平成 22 ～ 24 年度、20 万円、研究代表者　日本福祉大学　近藤克則

早坂信哉（分担者）　新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究、情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究、平成 22 年度（新規)、代表者一括計上、研究代表者順天堂大学　丸井英二

(5) 受託研究または共同研究

早坂信哉（研究代表者）株式会社バスクリン「入浴が健康増進に及ぼす影響に関する研究」平成 22 ～ 23 年度、50 万円（新規）

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1)特別講演･招待講演回数	0件	2件
(2)シンポジウム発表数	1件	0件
(3)学会座長回数	0件	5件
(4)学会開催回数	0件	1件
(5)学会役員等回数	0件	11件
(6)一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Kikuchi K, Murata C, Kondo I, Shibata Y, Nakamura M, Hayasaka S, Noda T, Ojima T : Relationship between skipping breakfast & cellular phone use among teenagers, The 10th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium, 2010, 9, Hamamatsu

5) 一般発表

ポスター発表

Chiyoe Murata, Tokunori Takeda, Hiroshi Hirai, Katsunori Kondo : Social support and dementia onset in Japanese elderly: a 4 year follow-up study, International Meeting of International Psychogeriatrics Association (IPA), 2010,9, (Santiago de Compostela, Spain)

Chiyoe Murata, Yoshitaka Saito, Hiroshi Hirai, Toshiyuki Ojima, Katsunori Kondo,　Does Lack of Social Supports Predict Functional Decline among the Old in Japan?: A 4 year Follow-up Study from the AGES Project. APHA's 138th Annual Meeting and Exposition, 2010, 11, (Denver, USA)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

早坂信哉：日本温泉気候物理医学会東海北陸地区温泉療法医研修会.　2010 年 10 月、熱海

2) 学会における特別講演・招待講演

早坂信哉：疫学研究の基礎と温泉医学. 日本温泉気候物理医学会関東上甲信越地区温泉療法医研修会.　2010 年 9 月、東京

早坂信哉:温泉療法の最近の話題. 日本温泉気候物理医学会東海北陸地区温泉療法医研修会. 2010 年 10 月、熱海

4) 座長をした学会名

尾島俊之：第 21 回日本疫学会学術総会　座長
尾島俊之：第 69 回日本公衆衛生学会総会　座長
尾島俊之：第 56 回東海公衆衛生学会学術大会　座長
尾島俊之：日本産業衛生学会東海地方会学会　座長
早坂信哉：第 75 回日本温泉気候物理医学会総会　一般演題座長

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之　日本公衆衛生学会　評議員
尾島俊之　日本公衆衛生学会　査読委員
尾島俊之　日本疫学会　評議員
尾島俊之　日本循環器管理研究協議会（日本循環器病予防学会）　理事
尾島俊之　東海公衆衛生学会　理事
尾島俊之　日本産業衛生学会東海地方会　理事
尾島俊之　日本他施設共同コホート (J-MICC) 研究　モニタリング委員（日本疫学会からの推薦）
早坂信哉　日本プライマリケア学会　評議員
早坂信哉　日本公衆衛生学会　評議員
早坂信哉　日本温泉気候物理医学会　評議員
村田千代栄　アメリカ公衆衛生学会　査読委員

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	1件

(2) 外国の学術雑誌の編集

Murata C. Journal of Health Behavior and Public Health (Academy Science Society, USA), Editor

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

尾島　俊之　　2 回　Journal of Epidemiology (Japan)
尾島　俊之　　1 回　Cancer Science (Japan)
早坂　信哉　　1 回　Journal of Epidemiology (Japan)
早坂　信哉　　1 回　The Journal of Occupational Health (Japan)
早坂　信哉　　1 回　J Jpn Soc Balneol Climatol Phys Med (Japan)
村田千代栄　　2 回　Public Health Nursing (USA)
野田　龍也　　1 回　Journal of Psychosomatic Research (Netherlands)

9　共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	1件

(2)国内共同研究	15件
(3)学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

1. EASS2010 (Eastern Asian Social Survey 2010)：Hong Kong University of Science and Technology, Renmin University：China, Sungkyungkwan University, Yonsei University：Korea, Institute of Sociology, Academia Sinica, National ChengChi University：Taiwan, H20-22, 調査票設計・資料交換、(文部科学省など)

(2) 国内共同研究

1. 地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究、AGES（愛知老年学的評価研究)、近藤克則（日本福祉大学社会福祉学部）
2. 心理社会面に着目した認知症の予防的社会福祉に向けた縦断研究、竹田徳則（星城大学）
3. JMS コホート研究、石川鎮清（自治医科大学地域医療学センター）
4. 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究、山縣然太朗（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）
5. 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究、橋本修二（藤田保健衛生大学医学部衛生学講座）
6. 聴覚器戦略研究　聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、福島邦博 (岡山大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
7. NIPPON DATA 研究、三浦克之（滋賀医科大学社会医学講座）
8. 地域健康安全に貢献するボランティアの養成・確保の方策に関する研究、曽根智史（国立保健医療科学院)、岡野谷純（日本ファーストエイドソサェティ）
9. 地域における低出生体重児予防要因に関する検討事業、小松仁（長野県諏訪保健所)、佐々木隆一郎（長野県飯田保健所）
10. 緑茶のもつ生活習慣病改善効果の検証と効果的な摂取を可能にする新商品の開発、栗山進一（東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター）
11. 厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究」、丸井英二（順天堂大学公衆衛生学）
12. JGSS2010（Japanese General Social Survey)、岩井紀子（大阪商業大学 JGSS 研究センター）
13. JALS study (Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study)、豊嶋英明（JA 愛知厚生連 安城更生病院）
14. 健康危機発生時における行政機関相互の適切な連携体制及び活動内容に関する研究　多田羅浩三（日本公衆衛生協会）
15. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究　丸井英二（順天堂大学）

10　産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	2件

1. 早坂信哉　株式会社バスクリン　「入浴が健康増進に及ぼす影響に関する研究」
2. 野田龍也　株式会社ファイン　「陶板浴の身体・心理面への影響についての研究」

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. AGES（愛知老年学的評価研究）プロジェクト

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めている AGES（Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究）プロジェクトに、当教室も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2003 年には、3 県 15 自治体における一般高齢者 3 万人の大規模コホートとなった。H19 年度より科学研究費を得て、高齢者の受療行動（健診受診など）についての日米比較研究に着手した。高齢者の受療抑制の予後（要介護状態、認知症・うつ発症など）について解析を行っている。

（村田千代栄、尾島俊之、AGES プロジェクト、日本福祉大学健康社会研究センター）

2. JMS コホート研究

自治医科大学地域医療学センターが中心になって、全国 12 地区の合計 1 万人の地域住民を 10 年間以上追跡して実施している大規模コホート研究に参画している。柑橘類等の果物摂取、身体活動度（Physical Activity Index）と、総死亡、循環器疾患の死亡及び発症、その他の健康に関するアウトカムに関する分析を進めた。

（早坂信哉、柴田陽介、山田友世、尾島俊之、自治医科大学地域医療学センター、JMS コホート研究グループ）

3. 健康寿命の地域指標算定の標準化に関する研究

厚生労働科学研究（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）「健康寿命の年次推移、地域分布と関連要因の評価に関する研究」（研究代表者　藤田保健衛生大学医学部衛生学講座　橋本修二教授）の分担研究として実施した。当講座では、健康寿命の関連要因のマクロ面からの評価を検討した。

（尾島俊之、野田龍也、藤田保健衛生大学、東北大学大学院）

4. NIPPON DATA 研究

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「2010 年国民健康栄養調査対象者の追跡開始 (NIPPON DATA 2010) と NIPPON DATA 80/90 の追跡継続に関する研究」（National Integrated Project for Prospective Observation of Non-communicable Disease And its Trends in the Aged）（研究代表者　滋賀医科大学社会医学講座　三浦克之教授）の分担研究として実施した。当講座では、静岡県、愛知県における調査について担当した。また、食品群摂取量と血清総コレステロールとの関連、牛乳・乳製品摂

取量と死亡リスク・健康寿命・ADL との関連について検討した。
（尾島俊之、近藤今子、中村美詠子、滋賀医科大学）

5. JGSS、EASS 研究

JGSS（Japanese General Social Surveys、日本版総合的社会調査）研究センターは、文部科学省より共同研究拠点として認定され、EASS (East Asian Social Survey) 2010 では、「東アジアの健康と社会」をテーマとして、肉体的・精神的・社会的健康に関する調査項目を日本・韓国・中国・台湾で共通に設け、2010 年に実施された。本調査には医療アクセスや医療に関する不安についての質問項目をいれ、現在は結果についての解析を進めると共に、総括班が整備した既存データの分析を、国内データ、国際比較データについて順次進めている。
（村田千代栄、EASS プロジェクト、JGSS プロジェクト）

6. JALS (Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study)

JALS は、公益信託・日本動脈硬化予防研究基金の助成の下、全国各地で行われている循環器コホート研究の個人データを統計的に統合し、日本人の循環器疾患発症リスクとリスク因子の影響を評価するために開始された研究である。JALS は、(1) 標準化を達成し前向きにデータを統合する研究（統合研究）、(2) 先行するコホート研究における個人単位の成績を緩やかな標準化によって統合する研究（０次統合研究）の二つの研究からなっている。JALS には、豊嶋英明名古屋大学名誉教授による愛知県職域コホートとしてデータの提供を行っている。本研究には共同研究者として参加し、心理社会要因と循環器疾患発症リスクの関連についてデータの解析などを行っている
（村田千代栄）

7. その他の研究

幼児に対するうがいや手洗いの普及と感染症発生の関係について研究、ポピュレーション・アプローチに関する研究、健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、低出生体重児出生関連要因分析に関する基礎的検討等を行った。

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. AGES プロジェクト、JMS コホート研究、NIPPON DATA 研究では、大規模コホート研究によって、今後の保健医療福祉施策に有用な知見を得た。

14　研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. AGES プロジェクトは、公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また、所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者 3 万人を対象にした社会疫学に関するコホート研究は、国内外でも貴重であり、文部科学省研究費を得て、日米の高齢者の

受療行動について、アメリカの大学との比較共同研究に着手した経緯がある。この研究は、根拠に基づく保健医療政策立案に向け、基礎的データの提示を目標としているが、政策に直結するこのような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ、研究の継続性、政策への応用性が見込まれる。

2. JGSS プロジェクトは、1999 年から蓄積されてきた総合的社会調査に基づく共同研究であり、大阪商業大学、東京大学、早稲田大学などが参加している。「大阪商業大学 JGSS 研究センター」は学術フロンティア推進拠点として文部科学省の助成をうけながら、2000 年調査からこれまで 6 回の全国調査を実施してきた。さらに、2003 年に台湾、韓国、中国の研究機関と共同で、East Asian Social Surveys（EASS）プロジェクトを立ち上げ、国際比較研究を行ってきた。本プロジェクトには、調査設計の初期段階、データ収集後の分析段階から柔軟に共同研究に参加できる体制があり、社会調査データに基づく日本社会の現状と変容についての共同研究、および東アジア諸地域との比較分析を行う共同研究が可能であり学術的意義は大きい。
3. JALS は、上島弘嗣特任教授（滋賀医科大学生活習慣病予防センター）を委員長、大橋靖雄教授（東京大学大学院医学系研究科生物統計学）を事務局長とする、33 コホート（約 70 市町村、9 つの職域）、約 12 万人からなる全国規模の統合コホート研究であり、2002 年から 2004 年 12 月までにベースライン調査が行われ (一部コホートは 2005 年 3 月末) た。全国規模のデータを用いて、循環器系疾患発症の関連要因について、多面的に検討する本研究は、今後の循環器疫学研究にとっても有用である。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 早坂信哉：「温泉と健康検定」HP で公開中　毎日新聞　2010.4.8
2. 早坂信哉：浜医大医師が温泉検定監修　静岡新聞　2010.4.17
3. 早坂信哉：あなたの安心　なっとく！お風呂　1　朝日新聞　2010.5.8
4. 早坂信哉：あなたの安心　なっとく！お風呂　2　朝日新聞　2010.5.9
5. 早坂信哉：あなたの安心　なっとく！お風呂　3　朝日新聞　2010.5.10
6. 早坂信哉：温泉で健康づくり　20 日、静岡で講演会　静岡新聞　2010.6.10
7. 早坂信哉：毎日の入浴、健康に効果？　静岡新聞　2010.6.12
8. 早坂信哉：「毎日入浴すると健康」 毎日新聞　2010.6.17
9. 早坂信哉：袋井市健康づくり計画　現状、課題話し合う　中日新聞　2010.7.10
10. 早坂信哉：滞在型観光の普及にも　静岡新聞　2010.8.13
11. 早坂信哉：膝痛の予防　エイミック、予備調査進める　伊豆毎日新聞　2010.10.22
12. 早坂信哉：温泉とエクササイズ活用　熱海新聞　2010.10.22
13. 早坂信哉：高齢者の入浴　175/95mmHg 超でも許可？　m3.com　2010.11.9
14. 早坂信哉：教えて！静岡の日本一「温泉」出演　ＮＨＫ静岡　2011.1.19 放送
15. 村田千代栄：医療費 3 割負担が生む受診格差，医薬経済，2010.4.10.
16. 村田千代栄：低所得者に医療費重く 広がる健康格差，中日新聞，2010.07.13
17. 村田千代栄：あなたは何歳まで働きますか？週刊東洋経済，40, 2010.10.2
18. AGES：仕事もなく健康も悪化　中高年を襲う貧困危機，週刊東洋経済，88-90, 2010.10.2
19. AGES：高齢者医療制度―なぜ患者負担の軽減が必要か，大阪保険医新聞，2011.1.25